

第8章

重点的な取組みの検討

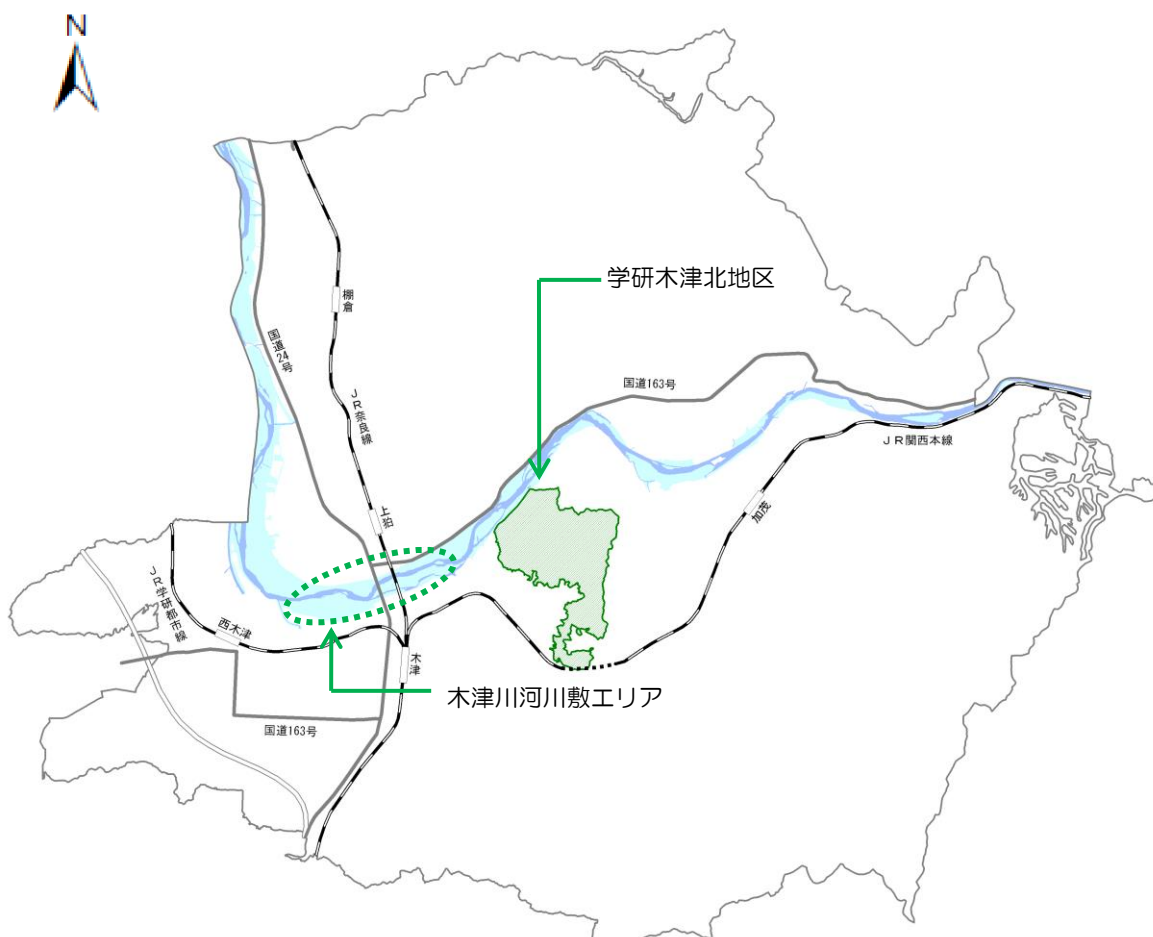


第8章 重点的な取組みの検討

市民アンケート調査の結果、里地里山、木津川は、「守りたい緑」の上位を占めており、緑の解析・評価においても、特に保全・活用を図っていくべき「緑」としております。

このことを踏まえ、学研木津北地区、木津川河川敷エリアについては、里地里山、水辺のまとまりある豊かな「緑」を有しており、交流エリアとしても期待されるため、本市の緑のまちづくりにおいて、核となる地区として、重点的に検討を深めるものとし

図 緑の重点的地区の位置



1. 学研木津北地区

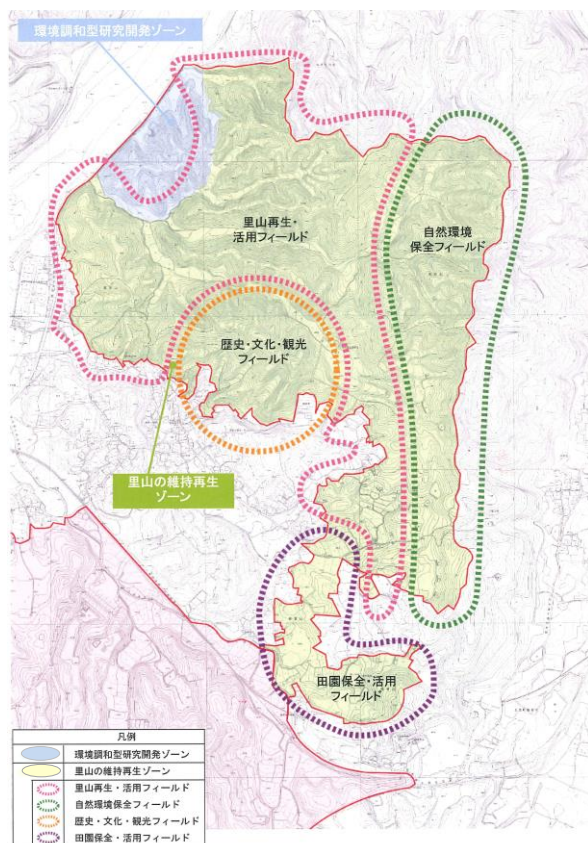
(1) 地区の特性

- 市の中央に位置し、地域特性を生かした交流エリアとして期待されています。
- 隣接する学研木津中央地区には、京都大学大学院農学研究科附属農場の移転が予定されています。
- 北側部は硬い岩盤で、南側部は湧水湿地を形成しやすい大阪層群で構成されています。植生的には、かつてはアカマツ林、コナラ林などの二次林や、水田で構成されていましたが、現況は竹林が広がり、耕作放棄地などが拡大しています。
- オオタカ、カスミサンショウウオ等の貴重種が生息しています。
- 室町及び戦国時代の和北・南山城地区の歴史文化を考える上で、重要な山城である鹿背山城跡が残っています。
- 市内外の活動団体等による里地里山保全活動、地元のこどもエコクラブと連携した環境教育などが展開されています。

(2) 地区の位置付け

- 平成 24 年 2 月に策定した「木津川市学研木津北・東地区土地利用計画」において、里山の維持再生の実現を図り、都市と自然が共生するエリアとして、また、歴史・文化の継承、エネルギー回収推進施設や環境調和型研究開発施設としての相互連携、環境学習や研究フィールドとして活用し、持続可能な都市の実現に向けた取組みを実践するエリアとしても位置付けています。
- 里山の維持再生ゾーンについては、生物多様性の保全実行にむけ、「生物多様性木津川市地域連携保全活動計画」を策定しました。今後は、その視点を踏まえ、多様な主体による里地里山の維持・再生の実現を図り、都市と自然とが共生するエリアとします。

図 学研木津北地区のゾーニング



(3) 取組みのイメージ

「木津川市学研木津北・東地区土地利用計画」における土地利用方針に沿って、市民と緑の会話が進む場とするように、以下の表のとおり、それぞれのゾーンの保全・活用を進めていきます。なお、里山の維持再生ゾーンにおいては、「生物多様性木津川市地域連携保全活動計画」に基づいて、生物多様性保全活動を進めていきます。

表 学研木津北地区 取組みのイメージ（木津川市学研木津北・東地区土地利用計画）

ゾーン・フィールド		取組みのイメージ	維持管理・活用例示
環境調和型研究開発ゾーン		<ul style="list-style-type: none"> エネルギー回収推進施設、環境調和型研究開発施設や里山活動の拠点施設整備 	<ul style="list-style-type: none"> 市民、企業等が連携して里山の維持再生活動を展開 里山活動に伴う発生材を研究開発施設等に供給 環境学習等のフィールドとして活用
里山の維持再生ゾーン	里山再生・活用フィールド	<ul style="list-style-type: none"> カスミサンショウウオ等の保全 市民による里山活動を通じて、人と自然との持続的な調和を図り、多様なライフスタイルを実践するための場の提供 	<ul style="list-style-type: none"> カスミサンショウウオ等貴重種保全 市民、企業等が連携して里山の維持再生活動を展開 里山活動に伴う発生材を研究開発施設等に供給 生物多様性の保全、里山活動等の観光学習・自然体験等のフィールドとしての活用
	自然環境保全フィールド	<ul style="list-style-type: none"> オオタカの保全 自然災害の防止等への整備 	<ul style="list-style-type: none"> 市民、企業等による里道の管理、及び飛翔空間確保のための枝打ち、採餌空間確保のための下草管理の実施
	歴史・文化・観光フィールド	<ul style="list-style-type: none"> 鹿背山城跡の環境保全 里山の維持再生活動の拠点、都市との交流拠点としての活用 	<ul style="list-style-type: none"> 公園の維持管理 芸術振興の活性化（木津川アート等）
	田園保全・活用フィールド	<ul style="list-style-type: none"> 都市農村が共存する自然豊かなライフスタイルの創出 生産緑地制度等の活用による農ある暮らしを創出 地産地消、市民農園等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 食育活動 市民、企業等の連携による農業・里山研修の実施 京大農場、JA 等との連携



▲自然体験の様子



▲市民団体の里地里山保全活動

2. 木津川河川敷エリア

(1) 地区の特性

- 木津地域と山城地域の中心市街地を結ぶ位置にあります。
- 木津川が西から北方向に大きく流れを変える水衝部にあり、水害防備林とともに砂州が広がる木津川独特の景観を持っています。また、木津浜と吐師浜を中心とする古代木津川の港（平城京の外港）と奈良街道などの旧街道を結ぶ交通の結節点となっていました。
- 現在、木津グラウンド、山城コミュニティ運動広場などが付近にあり、イベントや日常の憩いの場として、レクリエーション拠点となっています。

(2) 地区の位置付け

- 市のシンボルである木津川に市民が親しめ、市内外の交流が進むように、水辺と一体となったレクリエーション空間として位置付けます。
- エリアの特性を活かして、水辺生物とのふれあいや木津川の原風景を目指した環境づくりを目標とします。

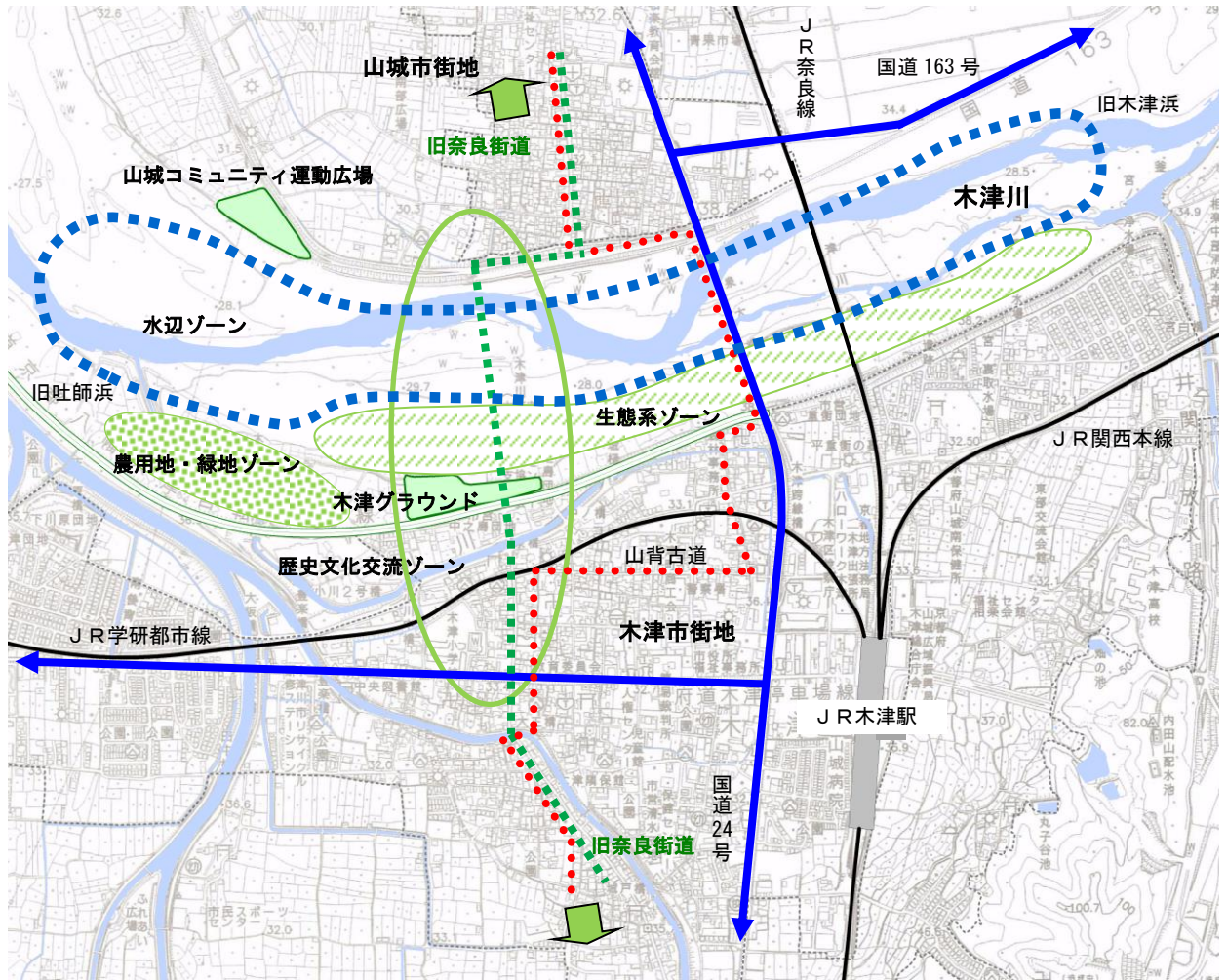
(3) 取組みのイメージ

木津川河川敷エリアでは、以下の表のとおり取組みのイメージを検討します。

表 木津川河川敷エリア 取組みのイメージ

ゾーン	取組みのイメージ
水辺ゾーン (木津川の水面と接しているゾーン)	・誰でも水に親しめる水辺づくり（例えば、体験学習などのレクリエーション活動の場の形成など）を検討します。
歴史文化交流ゾーン (広場と歴史文化資源が分布するゾーン)	・周辺に点在する遺跡や寺社、旧街道を結びつけ、木津川やまちの歴史を伝える歴史散策などの活動を目指します。
農用地・緑地ゾーン (堤外農地と周辺緑地の広がるゾーン)	・現況の耕作地、緑地を活用して、耕作者と協力して、木津川の季節感を演出するなど、景観形成を目指します。
生態系ゾーン (水害防備林と砂州が広がるゾーン)	・ヨシ、竹林などの現植生や水辺の保全を進め、生物の生息などに係る地域の環境保全を目指します。

図 木津川河川敷エリア 取組みのイメージ



▲木津川河川敷 生態系ゾーン



▲木津川河川敷 水辺ゾーン